

②けいはんな リフレッシュウオーク2 6回
足元で暮らしを支えるすぐれもの
今、マンホールがおもしろい。



2024年6月14日(金)

シニアライフ・プランナー/マンホーラー 吉田清彦

1. マンホールブームの歴史と社会的背景、そして、マンホールカード

数次のミニブームを経て、ここ数年、“マンホーラー”が急速に増え続けている

1977年 那覇市でデザインマンホール誕生

1986年 路上観察学会結成(～第一次マンホールブーム)

2009年 「日本マンホール蓋学会」がホームページ開設(～第二次マンホールブーム)

(2010年7月、吉田、初めてマンホールの写真を撮り、同年10月ホームページ開設)

※ 「マンホールサミット」(～第三次マンホールブーム)

第1回(2015年3月/東京秋葉原)300人、第2回(2015年11月/神戸市)300人

第3回(2016年3月/秋葉原)300人、第4回(2016年11月/大和郡山市)?人

第6回(2017年1月、川越市)3,000人、第7回(2017年11月/倉敷市)3,500人

第8回(2018年11月/北九州市)5,000人、第9回(2019年/池田市)4,500人

第10回(2022年/所沢市)14,000人、第11回(2023年/豊橋市)2日間で13,000人

※ 「マンホールカード」(～第四次マンホールブーム)

2016年4月、下水道広報プラットホームの企画・監修で第1弾28自治体30種を発行

2024年4月、第22弾34種を発行。累計1,035種(699自治体・団体)

※ 「マンホール聖戦」(2021年8月・渋谷/その後、全国展開)(～第五次マンホールブーム)

2. マンホール/下水道の歴史&こぼれ話

(a) 世界

パリの下水道

(b) 日本

日本の水道の起源：江戸時代、三代将軍家光の代までに完成した「神田上水」。石や木で造られた水道管(石樋・木樋)によって上水井戸に導かれた

日本の近代水道は、明治20年(1887)に日本で初めて横浜市に完成。

※JIS(規格模様)形マンホール(東京市型、名古屋市型)、蜂の巣型、テトラポット型
デザインマンホールについては後で詳しく

3. 下水道の排水の方式

- a 分流式(汚水(トイレ、台所、風呂、洗濯、洗面など)は終末処理場に、雨水は河川へ)
- b 合流式

4. マンホール（蓋）の種類

(1) マンホールとは（豆知識）

正しくはマンホールの蓋、もしくはマンホール蓋（manhole cover）／manhole（人孔）

※ アメリカのカリフォルニア州などでは maintenance hole（ポリティカル・コレクトネス）

※ ちいさいものはハンドホール（hand hole）

・材質：鋳鉄（FC）、ダクタイル鋳鉄（FCD）、FRP（繊維強化プラスチック）

・形：基本は丸型

・大きさ：直径 60cm が多い（海外でも 60cm 程度が基準になっている）

ほかに規格品として 90cm、45 cm、30 cm などがある

※親子マンホール

・重さ：昔は 60～80kg のものが多かったが、

材質の軽量化と強度の向上により、現在は 40 キログラム程度になっている

・種類：汚水、雨水、下水、合流／上水

電気、電話、通信、道路、交通局／CCB（共同溝）

工水、農水、河川

仕切弁、空気弁、制水弁、排水弁、排気弁、ドレン、バタフライ（蝶形）弁

逆止弁、流量計室、減圧弁室、バルブ、止水栓

ガス、電防

消火栓（防火栓）、防火水槽

量水器（水道メータ）、散水栓

側溝蓋

・耐用年数：2003 年に「車道部で 15 年、その他で 30 年」に設定される

・マンホールとマンホールとの間の距離：

「掃除のために 30m おきに設置する」のが基準になっている

(2) マンホールのデザインについて

※ J I S（規格模様）形マンホール（東京市型、名古屋市型）、

蜂の巣型（亀甲模様）、テトラポット型、T字型、コの字型、二の字型など

※デザインマンホール（自治体マンホール）（カラー、モノカラー、無色）

動植物（市の花、市の木、市の鳥）、観光名所（景観、山、川、行事、建物、城）など

／ゆるキャラ（※人物肖像はない→最近アニメキャラクターが増えている）

※自治体数：平成の大合併（1999 年～2006 年ごろ）で

市町村数が 95 年の 3,224 から 07 年 3 月に 1,812、10 年には 1,727 に

※狭い地域独自のデザインマンホール（地域デザインマンホール）もある

※企業や大学、官庁などのマンホールもある

※「削られ」マンホール

5. 私がマンホール（の蓋）にはまったきっかけ

6. マンホール（探索）の魅力

- ・きれい
- ・楽しい（いろいろな発見がある）
- ・健康によい（足腰が鍛えられる、速足になる）
- ・そんなにお金がかからない（旅費、乾電池代くらい）
- ・社会性がある（自治体の「暮らし」の足元がわかる／生活・産業遺産）
- ・いろんなところに行ける（計画を立てる楽しみ。ワクワク感+頭も使う）
自然を満喫できる
たまに、土地の人との小さな触れ合いもある
- ・ホームページで見てもらえる（+「順位」が上がる楽しみ）
他の検索キーワードのSEO対策にも大いに貢献
※見ってもらうための工夫（きれい、オリジナリティ、撮影場所を表示する）

7. レアマンホールについて／めずらしいマンホール類

(1) 呼び名：レアマンホール、骨董マンホール、殿堂入り——、希少——、珍品

(2) 種類

古いもの：横文字が右から書かれている

合併前の自治体名のもの（多くは削り取られる）

すでに存在しない団体（旧国鉄など）

旧字体など特殊な書体で書かれているもの

めずらしいもの、数が極端に少ないもの：

市章が逆向きだったり、斜めに傾いていたりするもの

文字の一部が上下逆向きにかかっている

明らかに誤字のもの

越境蓋（小越境、大越境）

8. マンホール探索の舞台裏

(1) 撮影計画を立てる：探索エリアを決める→列車の乗降駅を決める→列車の乗降時間を調べてタイムスケジュールを作成する→徘徊マップを作成する

※カラーマンホールがある場所（の見当のつけかた）

(2) 撮影：天候・季節・時間／カメラ（乾電池式デジカメ）・撮影位置・距離

撮影時に携帯する「七つ道具」：デジカメ、徘徊マップ、旅程表、刷毛、携帯（時計わり）、スマホ（以前は方位磁石）、夏場はマイドリンク／リュック

(3) 編集：写真をパソコンに取り込む→写真を取捨選択する→画像編集ソフトで写真を補正する→ホームページ用のサイズに縮小する→編集する→ホームページにアップする

9. マンホール探索の難点（落とし穴）

- ・（ホームページに掲載するために）時間を膨大にとられる
- ・交通事故の危険性がある